

第6学年 国語科 学習指導案

期日 平成18年 11月2日(木) 授業I
場所 6年1組 教室
児童 6年1組 男10名 女14名 計24名
指導者 堀井 彰

- 1 単元名 生き方や考え方を読み取ろう (光村図書 6年下)
教材名 「海の命」

2 単元について

(1) 教材について

本教材は、海という自然を舞台に主人公「太一」の少年期から青年期を描いた物語である。この物語のベースに流れるものは、海に生きる男たちの海に寄せる熱い思いと、自然と共に生きようとする人間の謙虚な姿である。海の男として生まれた太一が父の死を乗り越え、瀬の主との対峙を経て、父をしのぐ漁師へと成長していく姿は、6年生の児童にも感動を持って、読まれるであろうと思われる。

この物語は6つの場面で構成されている。この構成をとらえた上で、太一の心情の変化を読み取ったり、他の人物との関係を捉えたりしながら、作品の山場をじっくりと読み取ることができるであろう。また、一人の人間の成長には周囲の人間の存在が大きく関わってくることや、主人公にとっての海やクエのように、人間の成長に何らかの影響をもつ事物や事象があることに気付かせていきたい。

(2) 児童について

本学級の児童は「カレーライス」で同世代の主人公の気持ちに共感しながら読み取りを進めてきた。また、「やまなし」では、優れた表現からイメージを豊かに広げ、叙述を味わいながら、情景描写、比喩に着目して読み進めてきた。児童はこれらの教材を通して、大事な言葉や難しい言葉を考えながら書こうとしたり、視写した文章を生かし様々な表現の仕方を探そうとしたりしてきた。しかし、文章の読み取りでは語彙が乏しかったり、文章を通して共感し、イメージを膨らませたことを積極的に発表したりする児童はまだまだ少ない。従って、読み取り前の学習で語彙や難語句を調べたり、読みの視点をしっかりと捉えることや、期間巡視による個別指導をしたりすることで、それぞれの児童の考えを認めて、読み取りをよりいっそう深めていくことが課題である。

(3) 指導にあたって

高学年の「読むこと」の指導目標は、「目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読むことができるようにするとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」ことである。また、物語教材の指導内容は、「登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読むこと。」である。

そこで指導にあたっては、主人公の心情を中心に読み取りながら、場面の描写や、主人公が出会った人物や事象から学び成長していく過程を丁寧に学習していきたい。視写をもとに優れた叙述や表現にサイドラインを引いたり書き込みをさせたりし、学ぶ会う活動を通して読みが深められるようにしていきたい。そして、「海の命」という題名と関連させながら、主題に迫っていきたい。

3 単元の見どころ

(1) 関心・意欲・態度

- ・「海の命」について考えようとするとともに、関連図書などから命や自然について考えを広めようとする。(読ア)
- ・登場人物の心情や場面についての描写など優れた叙述に気を付けながら、太一が成長していく姿を読み取ることができる。(読ウ)
- ・情景描写や人物の心情を表す言葉をとらえることができる。(言ウ(エ))

4 指導計画 (11時間)

段階	時間	ねらい	学習活動	具体的評価規準
つかむ	1	・全文を読んで、これからの学習に関心を持つ。 ・新出漢字を確認する。	・全文を通読し(範読または形式段落ごとの順読みなど)簡単な感想(印象)を持つ。	(関) 太一の生き方や成長に興味を持ち、進んで感想を持つようとしている。
	2	・全文を読んで、あらすじをつかむ。	・全文を通読し、(形式段落または意味段落ごとに順読みなど)ポイントになる語句をおさえ、場面分けするなどして、文章全体を単純化する。	(読) 全文を読んで、あらすじをつかむことができる。
	3	・全文を読んで、学習の見通しを持つ。	・全文を通読し、(意味段落ごと)学習の見通し(学習計画、学習課題など)を持つ。	(読) 全文を読んで、学習の見通しを持つことができる。
たしかめる	4	・村一番の漁師であった父に対する太一の尊敬の気持ちを読み取る。①～⑥	・海に対する太一の強いあこがれをつかむ。 ・太一が尊敬する父の姿や考え方を読み取る。	(読) 村一番の漁師であった父に対する太一の尊敬の気持ちを読み取ることができる。
	5 (本時)	・与吉じいさに弟子入りし、父と同じような与吉じいさの考えにふれた太一の気持ちを読み取る。⑦～⑫	・与吉じいさに無理やり弟子入りした太一の気持ちをつかむ。 ・与吉じいさの言葉の意味を考え、与吉じいさの考え方を読み取る。	(読) 与吉じいさに弟子入りし、父と同じような与吉じいさの考えにふれた太一の気持ちを読み取ることができる。
	6	・与吉じいさの死に直面したときの太一の気持ちを読み取る。⑬～⑮	・太一や与吉じいさの言葉の意味を考え、太一の気持ちや成長した姿を読み取る。	(読) 与吉じいさの死に直面したときの太一の気持ちを読み取ることができる。
	7	・母の悲しみを背負いながらも瀬にもぐり続ける太一の気持ちを読み取る。⑯～㉑	・母の悲しみを背負いながらも瀬にもぐり続ける太一の思いの強さを読み取る。	(読) 母の悲しみを背負いながらも瀬にもぐり続ける太一の気持ちを読み取ることができる。
	8	・巨大なクエにもりを打たなかった太一の気持ちを読み取る。㉒～㉓	・巨大なクエに出会ったときの太一の様子や気持ちをつかむ。 ・太一の気持ちの変容をとらえ、漁師としてまた成長した太一の姿を読み取る。	(読) 巨大なクエにもりを打たなかった太一の気持ちを読み取ることができる。
	9	・父親になった太一の姿から太一の生き方を読み取る。㉔㉕	・「千びきに～」という叙述から太一の生き方を読み取る。	(読) 父親になった太一の姿から太一の生き方を読み取ることができる。

ま と め る	10	・「海の命」という題名について考え、作品の主題をつかむ。	・「海の命」という題名が何を表しているか作品全体から考え、主題をつかむ。	(読) 題名が表しているものを考え、作品の主題をつかむことができる。
ひ ろ げ る	11	・立松和平の他の作品を読み、感想を持つ。	・「海の命」と比べながら読み、考えを広げる。 ☆山のいのち ポプラ社 ☆川のいのち くもん出版 ☆田んぼのいのち くもん出版	(関) 進んで他の作品を読もうとしている。

5 本時の学習について

(1) ねらい

◎与吉じいさに無理やり弟子入りし、父と同じような与吉じいさの海への思いにふれた太一の気持ちを読み取る。(読むこと)

(2) 本時の展開

	学習活動 (○主発問)	期待する児童の反応	留意点・評価
つ か む 7 分	1 前時の学習を想起する。 ○ ①～⑥の場面を音読してもらいます。 2 学習課題を確認する。 太一がなかなかつり糸をにぎらせてもらえなかったのはなぜだろう。	・順読み	
た し か め る 3 5 分	3 課題解決への取り組み (1) 学習場面を音読する。 ○ ⑦～⑫の場面を音読してもらいます。太一の行動や思いが分かる文章に気をつけて読みましょう (2) 学習場面の読み進め ○ 無理やりでも与吉じいさにの弟子になろうと思ったのはなぜでしょう。 (3) 視写 ○ 太一がつり糸をにぎらせてもらえなかった部分は何段落ですか。分かるところを視写してその理由を考えていきましょう。 形式段落⑩ (P. 73L. 8～P. 74L. 1) ○ 一人学び (作業の進んでいる児童のための手立て) ・視写文を読み返す。 ・与吉じいさが太一につり糸をにぎらせず、何かを伝えたかった部分に線を引く。 ・太一がどう感じているかくわしく書き込む。 (4) 学び合いをする。 ○ 与吉じいさは何と語ってくれたのですか。	・順読み ・父が死んだ瀬に行く漁師だから父の事を思って仇をうちたいと思ったから ・⑩段落	・口をしっかりとあけて読む。 ・太一が与吉じいさに無理やり弟子入りしたときの思いを考えさせる。 ・ていねいに視写させる。 (・太一が与吉じいさの語る言葉をどう思っているか書き込めない児童への個別指導) ・教科書は閉じる。
		・「千びきに一びきでいいんだ。千びきいるうち一びきをつれば、ずっとこの海で生きていけるよ。」	

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 与吉じいさはどんな事を思っ この言葉を語ったと思いますか。 ○ もしも、太一がつり糸をすぐ 持たせてもらっていたらどんな ことがおきたと思いますか。 ○ 与吉じいさの語る言葉と同じ ような意味で、だれか以前に 言った言葉はありませんか。 ○ 二人の言葉は違うが、太一に どんな事を伝えたかったので しょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・海のめぐみを伝えるため 漁師の心得 ・魚をとりつくしてしまってい たすぐにさかなをとっていた ・太一の父が「海のめぐみだか らなあ」 ・海の豊かさの大切さ むやみに魚をとらないこと 漁師の心得 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1場面との共通点を 考える。
ま と め る 3 分	<p>4 学習のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ まとめの音読をする。 <p>5 次時の学習内容確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・黒板の視写文を一斉読 	

(3) 具体の評価規準と支援の手立て

◎与吉じいさに無理や り弟子入りし、父と同 じような与吉じいさの 考えにふれた太一の気 持ちを読み取る。	A	B	C
	<ul style="list-style-type: none"> ・太一がなかなかつり糸を にぎらせてもらえなかつた 理由をこれまでの経緯から 考え、与吉じいさの言葉の 意味をどのような思いで太 一が聞いていたか書き込む ことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・太一がなかなかつり糸を にぎらせてもらえなかつ た理由や、与吉じいさの言 葉の意味を考えることが できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・与吉じいさに無理やり弟 子入りした太一の気持ち を考えさせ、太一に語って くれる与吉じいさの言葉 を探させ、どうしてこのよ うな言葉を言っているか を考えさせる。

板書計画

<p>海の豊かさの大切さ</p> <p>一ぴきをつれば、ずっとこの海で生きていけるよ。」</p> <p>千びきに一ぴきでいいんだ。千びきいるうち</p> <p>与吉じいさは独り言のように語ってくれた。</p> <p>魚からつり針を外す仕事ばかりだ。つりをしながら、</p> <p>上がった。つり糸にえさを付け、上がった</p> <p>太一は、なかなかつり糸をにぎらせてもらえ</p> <p>なかつた。つり糸にえさを付け、上がった</p> <p>父 「海のめぐみだからなあ。」</p>	<p>海 の 命</p> <p>立松 和平 伊勢 英子 絵 作</p> <p>太一がなかなかつり糸をにぎらせてもらえな かったのはなぜだろう。</p>
---	---